



第383号

**公益社団法人
徳島県環境技術センター**

発行

徳島市津田海岸町 2-33

電話 (088) 636-1234(代)

発行責任者 松原 義輔

編集者 原岡 艶甲

環境総局長に要望書提出



合併浄化槽設置推進と 維持管理の徹底を要請

県環境技術センター執行部は、1月25日(水)午後1時30分、県庁に坂東総局長を訪ね、知事への要望書を手渡した。要望の趣旨は、①汚水処理普及率の低い徳島県の状態を改善するため、合併処理浄化槽の普及をより一層進めていただきたい。②他県に比べて法定検査の不適合率も高いため、適正な施工及び維持管理を徹底するシステムを早急に構築願いたい。の2点。

松原会長は『特に合併処理の普及推進については、いくら補助金を出してもらっても、既に水洗化している単独浄化槽から合併浄化槽への転換は進まない。やはりいつまでという期限を設けて市町村型等で転換していく必要がある。また、集合処理区域内であっても、合併処理を設置しなければならないところがある。一方は市町村が集金・管理し負担が少なく、一方は個人が管理し、費用が高い。非常に理不尽で、住民間の公平性が損なわれている』と発言。

これに対し、坂東総局長は、『今も、各市町村に対し、市町村設置型浄化槽の導入を積極的に働きかけてはいるが、なかなか良い返事はもらえていない。現行の制度では、市町村で条例を制定しなければならないなどハードルが高い部分もある。もう少し、取り組みやすい制度設計を考える必要があり、たとえば、個人で設

置するが、維持管理は市町村が関与するとか、逆に市町村が設置し、あとの管理を外部委託する方法、また市町村全域を対象とせず、局所的・部分的に導入するミニ市町村型のような制度の検討も必要と考えている。』と返答した。

また、松原会長は『私の地元も昔は小さな水路や小川にめだかやフナなどがたくさんいたが、集落排水等で水路の水が無くなり、生き物がいなくなった。浄化槽ならば使った場所に放流するので、水が枯れることもない。また、下水道に比べ、地震に強く、工期も短いため、投資効果の発現も早い。しかも地元業者で設置できるため、地域経済の活性化も期待できる。是非、積極的に推進していただきたい。但し、唯一、維持管理の不徹底が弱点なので、ここには行政の関与が不可欠と考えている。これについても早急に改善の方策を検討いただきたい』と重ねて要請した。

最後に、坂東総局長は、『県もセンターも目的としているところは同じであり、要望の内容については、十分に理解している。実現のため、前向きに検討させていただきたい。今後も知事指定の検査機関であるセンターとは常に緊密に連携しながら、浄化槽行政を前進させたいので、是非協力をお願いしたい』と挨拶し、会談を終えた。



第1回 法定検査検討会

開催

平成 23 年度第 1 回法定検査検討会が、1 月 12 日県庁 402 会議室で開催された。

検討会には、県ゴミゼロ推進室、東部保健福祉局、南部総合県民局、西部総合県民局、県環境技術センターから浄化槽の担当者全 11 名が出席し、浄化槽法定検査の課題や対策について協議を行った。

県ゴミゼロ推進室の脇田係長の開会挨拶のあと、センター藍原課長が、平成 22 年度および 23 年度上半期の実績報告を行い、続いてセンター竹内部長から法定検査についての課題として、検査判定の取扱等についての報告がなされ、県担当者との協議が行われた。

その他、脇田係長から、維持管理一括契約について那賀町での実績報告並びに現在、神山町と鳴門市で一括契約導入への準備が進んでおり、協議会設立が決定しているとの報告がなされた。

現在、東部保健福祉局管内中心の動きであるが、今後西部、南部県民局管内にも拡大を図る予定である旨の報告が併せてなされた。

その後、検査業務の諸問題等の検討課題が各担当者から提起され、意見交換がなされた。

この検討会は年度末までに再度開催される予定。



第3回 理事会開催

県環境技術センターは、1月27日(金)午後3時より、徳島市内の渭水苑で理事会を開催した。

松原会長が「設置届が減少し、退会する会員も増えております。運営がますます厳しくなっておりますので、理事のみなさんの一層のご協力をお願いします。」と挨拶の後、松原会長が議長となり議事に入った。

第1号議案 各種規程の変更等について

保証制度実施要綱・HP広告掲載規程・役員選任規程につき、原岡専務理事が提案理由を説明し、議長がその賛否を理事会に諮った結果、HP広告掲載規程の一部に修正を求められたが、3規程等すべてが、承認された。

第2号議案 支所の財源確保（設置届に係るメーカー会員の意見等について）、議長の指名で、原岡専務理事が12月に開催された浄化槽普及推進部会（メーカー部会）の結果につき報告した。理事会で決定した「浄化槽普及促進部会規程」については問題なく了承されたが、部会長副部会長の選任は、次回に持ち越しとなった。また、執行部が提案した、設置届に係る負担金の問題については、どのメーカーも難色を示したことを報告した。

理事からは、やはり、前回と同様、メーカー負担が

公平で徹底できる。工事の価格破壊の原因となったのは、メーカーの直接販売・工事によるものであり、メーカーの責任である。県内で販売する以上、協力するのがあたりまえなど、メーカーに協力を求める声が多かったため、他県での事例を参考に、再度普及促進部会を開き、協力を求めることとした。

第3号議案 会員の入会及び退会について

原岡専務理事が、入会希望者及び退会届提出者の報告を行なった。

入会希望の海部地区の坂本設備工業㈱については満場一致で入会が承認された。また、今回報告された退会者は次のとおりである。

阿南地区

藤野水道（施工）、宝電機有（施工）の2社

最後に、①23年7月～12月までの事業報告及び②収支決算報告、③また、来年度、管理士及び技術管理者講習を徳島県内に於て開催することにつき報告し承認された。



会員の動向

入会	坂本設備工業㈱	海部地区
退会	藤野水道 宝電機有	阿南地区

新年の業務の安全・発展を祈願

県環境技術センターは、1月4日、全職員69名（支所除く）を集め、仕事始めの式を執り行った。

まず、仕事はじめ式の前に、1階駐車場において、地元八幡神社の野村宮司により、新年の業務の安全と発展を祈願し、ご祈祷が執り行われた。

ご祈祷のあとは、4階会議室に移動し、新年職員全体会議をおこなった。松原会長、井内副会長、原岡専務理事、大坂常任理事、川人常任理事が、新年の挨拶をし、最後にますます状況は厳しくなるが、役職員一丸となって、センターの発展と、受検率の向上のため、本年も精一杯頑張ることを誓った。



保守点検技術講習会開く

1月16日徳島グランヴィリオホテルで「保守点検技術講習会」が開催された。この講習会は、県の委託事業として、毎年1回開催しているものである。



講習会には浄化槽管理士・浄化槽設備士をはじめセンター会員に所属する従業員、県民局・市町村担当者等、182名（管理士153名、行政13名、従業員16名）が出席し、センターの松原会長の開会挨拶のあと、講義に入った。まず、第1時限目は阿南工業高等専門学校 川上 周司助教が「微生物について」と題して排水処理システム内に生息する微生物について詳しく講義を行った。

引き続いて第2時限目は財団法人日本環境衛生センター 数間 亨講師が「浄化槽における衛生害虫対策について」と題して、浄化槽の関係する害虫の紹介や薬品による発生予防対策の実験結果について説明した。

また、3時限目は、県環境管理課の林 修三係長から、「水質汚濁防止法の改正点について」と題して、現在の水質汚染状況や法改正となったポイントについて講義が行われた。参加した受講者は日頃の業務と関連付けながら、疑問や問題点について熱心に勉強した。

浄化槽機器展

また、同時に、隣の会場で、浄化槽に関連する機器類の展示会が開催された。

機器展では9社がPH計やDO計の検査機器や消毒剤等を展示し、参加した受講者に対し、最新の点検機器やシステム等をPRしていた。



出展したメーカーは次のとおり。

東亜ディーケーケー(株) PH計・DO計・透視時計等
 ㈱エィ・テックス

四国化成工業㈱……消毒剤・消臭剤など

㈱日環商事……マンホール開閉具、汚泥・スカム厚測定具等
 日新機械㈱……点検機器

環境新聞社……情報誌「環境情報」

東芝コントロールシステム㈱……管理システム

メドー産業㈱……ブロワー

(公社) 徳島県環境技術センター……各種計量証明

徳島県の汚水処理構想の素案まとまる

平成42年度に汚水処理率を82.8%に

徳島県は、このほど、「とくしま汚水処理構想2011の素案～きれいな水環境の実現～をまとめた。

それによると、18年後の平成42年度の県内総人口を67万5千人と予測し、平成20年度の23万3千人の浄化槽人口が平成42年度には約6万7千人増加し、約30万人になると見込んでいる。

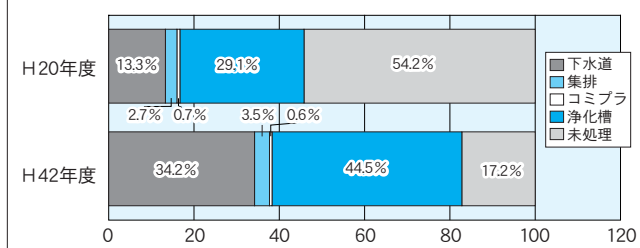
新しく見直された計画では、平成42年度の汚水処理人口普及率を82.8%と計画し、そのうち、44.5%を浄化槽で処理することとしている。

前回平成18年度に改定したこれまでの汚水処理構想では、34年度に汚水処理人口普及率を77.6%とし、公共下水道で43.8%、浄化槽で28.1%としていたため、大幅な方針転換となる。

しかし、42年度の集合処理による汚水処理人口は12万4千人増の23万人に対して、個別処理（浄化槽）は約半分の6万7千人増の30万人と設定しており、集合処理に対して個別処理（浄化槽）の増加幅が少ない。よってセンターとしては、人口減少・高齢化の社会構造の変化や財政状況がますます厳しくなるなか、下水道と同等の処理能力を持ち、安価に設置できて、財政にやさしく、しかも投資効果が早く、投資の無駄がない、個別処理の浄化槽による整備を積極的に進めるよう県及び市町村へ要望していきたい

		基準年次 (H 20)		目標年次 (H 42)	
		整備人口	汚水処理普及率	整備人口	汚水処理普及率
集合処理	公共下水道	5,463	0.7%	57,418	8.5%
	単独公共下水道	89,973	11.2%	132,217	19.6%
	特定環境保全公共下水道	11,125	1.4%	41,206	6.1%
	計	106,561	13.3%	230,841	34.2%
	集落排水	20,885	2.6%	22,999	3.4%
個別処理	農業集落排水施設	282	0.0%	520	0.1%
	漁業集落排水施設	170	0.0%	57	0.0%
	計	21,337	2.7%	23,576	3.5%
	コミュニティプラント	5,423	0.7%	3,765	0.6%
	計	133,321	16.7%	258,182	38.3%
個別処理	合併浄化槽	232,324	29.0%	295,873	43.8%
	合併浄化槽（市町村型）	913	0.1%	4,415	0.7%
	計	233,237	29.1%	300,288	44.5%
未処理		434,267	54.2%	116,357	17.2%
処理合計		366,558	45.8%	558,470	82.8%
合計		800,528	100.0%	674,827	100.0%

汚水処理の比較（平成20年：平成42年）



第1回 スキー・スノーボードツアー開催

1月28日(出)、県環境技術センターと浄化槽設備士会、浄化槽管理士会合同の、スキー・スノーボードツアーが開催された。当日朝4時30分に、眠い目をこすりながら、会員の皆さんと職員併せて30人の参加者が津田に集合、予定どおり5時に目的地である奥神鍋スキー場に向けバスを走らせた。

長靴を履いてやる気満々の美馬管理士会会長が、出発の挨拶をしたあと、まずはサンドイッチで腹ごしらえをし、センターのバス旅行では恒例となっているクイズを楽しみながら一路スキー場へ。

バスの中では、空気の読めない川人次長が、スキー場へ着く前から滑りっぱなし。『みんな眠たいのに、よう辛抱してくれてますネェ』とか『スキーもこれくらい上手にスべったらエエのに』などという職員からの陰口にも「河馬」耳東風？でしゃべり続けていた。

そのうちにバスは丹波篠山を越え、外は一面の雪景色。タイヤ規制や交通事故の影響で、到着時間は予定より50分ほど遅れていたもので、みんな早くゲレンデに出たくてウズウズ。ドライバーさんのご厚意で、無理矢理スキーセンターのすぐそばまで着けてもらった

ものの、ここで、またもや例の人が大ブレーキ。『集合写真を撮るとかんとアトでめんどい編集長にグズられる』というワガママで、皆さんにリフト前で待機してもらったが、結局、レンタルの人待ちであえなく断念。非常に段取りが悪く、時間を大きくロスし、参加者の皆さんに迷惑をかけてしまった<(_ _)>。

10時を大きく過ぎてようやく滑り始めたが、若者達や上級者は早速頂上を目指しリフトに。美馬会長は年季の入った板に乗り、熟練の技を披露、田中社長もスノーボードで軽やかな切り返しを見せ、参加者の注目を集めていた。

一方、初心者グループは、下の緩やかな斜面で『ギャー、イヤー!!』『止まらん当たる当たる!!』とそこら中に響き渡る声でわめきちらしながら、ハタ迷惑な初滑りを楽しんだ。

なかでも〇岡さんは、志村けんのおばあさんの如く、おしりを後ろに突き出して逆走。あられもない姿に周囲は大爆笑していたが、本人は至って真剣。つえ代わりのストックに必死にしがみつकिながら、「股裂き」を仕掛けてくるほとんどフラットな斜面と格闘していた。

午後4時に現地出発のため、十分な滑走時間は取れなかったものの、参加者の皆さんはそれぞれ思う存分楽しんだ様子。さすがに帰りは、皆さん疲れてグッタリ。

今回の参加者の皆さんはとてもマナーが良く、時間もキッチリと厳守していただいたため、到着は予定よりも早く、午後9時前にはセンター事務所に到着、散会となった。



水質計量便り

～最強の生物クマムシ～

依頼分析用のサンプルを顕微鏡で観察していると、クマムシを発見!! \(`。´)/

とても愛嬌のある姿で、4対8脚でもそもそ歩く様子は、その名の通りくまのよう…。

正式名は「マクロビオタス」。

水処理状況として、良好な時に出現率が高い微生物です。この癒し系の生き物、実は姿に似合わず、世界最強の生物として知られています。

まず、生き物には水が必要ですが、クマムシはカラカラに乾燥しても、また水を与えると蘇生し平然と動いています。

秘密は、乾眠とよばれる仮死状態にあり、9年間乾眠後蘇生した記録や、冷凍保存の場合は20年間という記録さえあるようです。

さらに、この乾眠状態のクマムシは、普通の生き物ではとても耐えられないような、-273℃の極低温から+151℃の高温、深海底よりもはるかに高压にも耐え、真空状態や人の致死量の約1000倍のX線照射など、

極限環境でも生き残る、すごい生物なんですな。

この特性から宇宙分野での実験に注目されているようです。すでに人工衛星にのせ宇宙空間に10日間さらされる実験等が行われ、

蘇生することが確認されたようです。

すごいですね～(*。^*)

ただ、この乾燥耐性は、陸に住む仲間の特性らしく、すべてのクマムシが持つわけではないようです。

顕微鏡の中で動いているこのクマムシは、最強の生き物かしら? (・。・)

by koizumi

事務局だより

法定検査のお知らせ

次の日程で法定検査を実施します。

〇11条検査

日程1：平成24年3月15日～3月23日

地 区：小松島市・阿南市・勝浦町・上勝町・那賀町

日程2：平成24年3月26日～3月30日

地 区：徳島市

〇7条検査

日 程：平成24年3月12日～3月16日

地 区：鳴門市

